

真生会リソースナースジャーナル 第7号

今年度は、リソースナース2名ずつ順番に、日頃の活動に加え、皆さんが知らないディープな一面にも迫っています。今回は、腎不全看護特定認定看護師の和泉さんと感染管理認定看護師の梅田さんです。

腎不全看護特定認定看護師の歩みと 今後への意志

腎不全看護特定認定看護師 和泉 秀俊

私は腎不全看護特定認定看護師として、慢性腎臓病（CKD）の進行に伴う意思決定支援、療養生活支援、緩和ケアに携わっています。私の実践の中心には、「CKD G5（慢性腎不全のステージ5）に至るまで、その方の価値観や生活様式に合わせて腎代替療法の選択をすり合わせていく」という視点があります。患者さんの思いや大切にしていることを丁寧に伺いながら、血液透析・腹膜透析（PD）・保存的腎臓療法（CKM）といった選択肢を整理し、本人らしい選択ができるよう寄り添うことを大事にしています。

治療選択後は、患者さんが自分らしく生活できるよう、腎臓リハビリを含む包括的支援を行っています。私は、「潤いのある、その人らしい尊厳あるCKD療養生活のために腎臓リハビリが必要である」と考えています。腎臓リハビリは身体機能の維持だけでなく、生活の質（QOL）を高めるための取り組みです。運動療法、栄養管理、フレイル予防、服薬支援などを多職種と協働しながら組み合わせ、患者さんが主体的に療養生活を歩めるよう伴走しています。



2026年の診療報酬改定で腎不全が緩和ケアの対象となり、特定認定看護師の役割はさらに広がりました。超高齢社会となり、当院でも70～90歳の透析患者さんが増え、通院負担や治療継続が難しくなる方が増えています。「1日おきの血液透析が困難な場合、緩和的PDが有用」とされており、在宅で穏やかに過ごせる治療法としてPDの価値は高まっています。私はPD導入支援、在宅療養支援、家族支援を包括的に担い、患者さんの尊厳を守る緩和的アプローチにも取り組んでいます。



また、富山県腎不全看護研究会として「腎不全患者の在宅医療等に関する医療連携体制モデル事業」に協力することになりました。今後も、腎不全の患者の一人お一人が思い描く療養生活を実現できるよう、多職種ケアを推進し、地域連携の強化と在宅療養の整備に尽力していきたいと考えています。



こんな活動もしています

いのち未来学校と リソースナースチームがコラボ

敷地内クオール薬局で開催されている「いのち未来学校」は地域住民の「学びの場」として喜ばれています。

いのち未来学校を、住民のみなさん同士や病院の医療者との「交流の機会」、外へ出ていく機会となる「通いの場」としても活用するため、あらたな企画がスタートしました。

その名も「気軽に相談・おしゃべりひろば」です！

奇数月に「話題提供の講話＋参加者同士で語らう時間」という形式で、リソースナース6名が専門性を活かしたテーマを決めて担当します。



＊テーマ＊

7月 もの忘れ・老いの不安

～安心して暮らしていくためのヒント～（松井）

9月 もし「がん」と告げられたら

～自分らしく過ごすために知っておきたいこと～（深谷）

11月 いつまでも自分の足で歩くために

～今日からできる足の健康づくりとフットケア～（上水）

地域のみなさんの身近な保健室のような存在を目指して、心と体の健康を支えていきたいと思っています。

8月のおとぎの森公園

感染管理認定看護師 梅田 加洋子

先日の日曜の午後、娘や孫たちと「おとぎの森公園」へ出かけました。途中で買ったマンゴーフラペチーノを手に「32度の暑さに耐えられるだろうか」と少し覚悟していましたが、川風が心地よく思いのほか快適でした。

ドラえもんやのび太君の元気な像と、「アチチッ」と言いながらも器用に遊具を滑り降りてくる孫の笑顔に癒やされ、楽しい時間となりました。

室内遊戯場もありますが、風が通りにくく少し熱気がこもっていたため、職業病（？）も手伝って早々に退散。やっぱり外が一番ですね。

暑い季節は脱水や日焼け対策が欠かせませんが、短時間でも太陽を浴びると「幸せホルモン」のセロトニンが分泌され、心身が整うと言われています。

きれいに整備された園内には某コーヒーショップもオープンしており、大人の散歩コースにもぴったり。健康で幸せなひとときを過ごすのに、おすすめのスポットです。



お問い合わせはこちらへ

看護部 加藤礼

電話 0766-52-2156（代表）



医療法人 真生会
真生会富山病院
SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL